

平成28年度 多摩市ニュータウン再生推進会議（第1回）会議録要旨

開催日時	平成28年8月30日（火）午後3時～4時50分
開催場所	関戸公民館 第1・2会議室
出席者	<p>【委員】（敬称略） 上野淳、西浦定継、薬袋奈美子、宮城俊弥、酒井弘、井上亮、松原和男、永尾俊文、浦野卓男、須田雄次郎 （欠席：五嶋智洋）</p> <p>【専門委員】 南佳孝、平野幹二（欠席：黒田聡）</p> <p>【事務局】 多摩市企画政策部：参事 多摩市都市整備部：ニュータウン再生担当課長、住宅担当課長</p>
配布資料	<p>資料1：多摩市ニュータウン再生推進会議設置要綱</p> <p>資料2：多摩市ニュータウン再生推進会議・PDCA サイクルの考え方・平成28年度シンポジウムについて</p> <p>資料3：PDCAによる多摩NT再生方針のプロジェクト管理の考え方</p> <p>資料4：「多摩ニュータウンの魅力実感ツアー」実施について</p>
議事日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 市長挨拶 4 委員長の選任・職務代理者指名 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> （1）再生推進会議について （2）PDCA サイクルの考え方について （3）平成28年度シンポジウムについて （4）その他 6 閉会

議事

1 開会

事務局より開会。

2 委嘱状交付

市長より各委員へ委嘱状交付、事務局より多摩市委員紹介、事務局自己紹介。

3 市長挨拶

- ・本会議参加者にお礼。
- ・再生推進会議に先立つ再生検討会議を設置した平成 25 年度以降、市民が参加するシンポジウムを 3 回行ってきました。昨年度は再生検討会議から「多摩ニュータウン再生方針」の提言をいただきました。改めて先生方に感謝申し上げます。
- ・多摩ニュータウン再生検討会議を立ち上げて以降、東京都では尾根幹線道路の整備や都営諏訪団地の建替えなど、諏訪・永山地区を中心に様々な動きが出てきました。多摩市も、旧西永山複合施設や旧中諏訪中学校のグラウンドを都営諏訪団地建替えの種地とするなど、東京都と連携を図っています。
- ・日本自体も大きく変化してきていますが、特に超高齢化社会と少子化が大きな問題です。多摩ニュータウンもまち開きから 45 年が経過し、少子高齢化を初め多くの課題に直面していますが、一方で再生に向けて動き出しています。
- ・東京都においても、多摩ニュータウン全体の再生に向けて、多摩市、稲城市、町田市、八王子市などの参画のもと議論を進めているところです。
- ・そのような状況の中、本日から多摩市ニュータウン再生推進会議を立ち上げます。今回から新たに公募市民の方 2 名や、専門委員として小田急電鉄様にも加わっていただきました。皆さんと力を合わせて再生方針をしっかりと見つめ、行動に移していくことが再生推進会議の役割と考えます。

4 委員長の選任・職務代理者指名

- ・委員の互選により選任。推薦があり、委員長は上野委員に決定。
- ・委員長挨拶 再生検討会議が再生推進会議に変わり、ますます会議が重要性を帯びてきました。今回から市民委員の方にご参加いただいているので、一層深い議論を期待しています。
- ・これより委員長進行。委員長より西浦委員を職務代理者に指名し、決定。
- ・委員より自己紹介。

5 議事

(1) 再生推会議について

- ・事務局 資料 2-1 「多摩市ニュータウン再生推進会議について」の説明。

(2) PDCA サイクルの考え方について

- ・西浦委員 資料 2-2 「PDCA サイクルの考え方」資料 3 「PDCA による多摩 NT 再生方針のプロジェクト管理の考え方」の説明。

質疑等

〇〇委員 本日議論していただきたいことは3つあります。1つ目は再生方針で示された「再生に向けた取組み方針」をプロジェクトレベルまでブレイクダウンする場合の具体的なプロジェクトや検討の精度です。2つ目は具体的な KPI の内容の検討方法です。KPI を詰めるためには「再生に向けた取組み方針」をプロジェクトレベルまでブレイクダウンする必要があると思います。3つ目は望ましい運営体制です。再生推進会議なので方針について話し合うよりもそれらを具体化することが重要です。皆さんからもご意見をいただければと思います。

上野委員長 ありがとうございます。それでは、再生推進会議のこれからのありかた、特に PDCA・KPI に対する包括的なご意見やご質問をお願いします。西浦委員からもあったように、5つのプロジェクトの推進に向けた具体的なメンバーや組織、議論の頻度、再生推進会議との関係について、具体的なイメージがあれば事務局からご発言いただけないでしょうか。

事務局 (資料2の9ページを見ながら) プロジェクトの熟度によって、動き始めやすいものとそうでないものがあります。例えば、「駅拠点の再構築」は、「多摩市役所庁舎のあり方検討委員会」における検討状況と関係するため、その動向に合わせて、関係者での勉強会の立ち上げを予定しています。昨年度から進めている諏訪・永山地区まちづくり計画の検討において、関係する地権者の方々へのヒアリングも行っており、それらの方々を勉強会のメンバーとして想定しています。また、「賃貸団地の再生」については、すでに動き始めている都営諏訪団地の建替えに関する東京都と多摩市の意見交換が、分科会に発展していくと考えています。

上野委員長 ありがとうございます。確かに、駅拠点の再構築・賃貸団地の再生・尾根幹線沿道の有効利用は動き出しそうです。リーダーや会議形態、再生推進会議との関係について、もう少し具体的なイメージを説明してください。

事務局 まず、「賃貸団地の再生」については、都営諏訪団地の建替えが事業着手されているので、次回の再生推進会議では進捗状況を報告できると思います。逆に、「分譲団地の再生」については、各管理組合との調整中であり、行政としての支援方策の検討にもう少し時間を頂きたいと思います。

〇〇委員 質問の趣旨とは少し異なる話になります。昨年度末のシンポジウムでは、今年度は再生推進会議を立ち上げ、もう少し市民レベルの議論に入るという話でしたが、年に2回の再生推進会議で何ができるのか疑問に思います。大きなプロジェクトを進めるのも当然大切ですが、一市民の立場からみると、市民・住民サイドのニーズ等についての視点が抜け落ちている気がします。例えば、私が事務局を担当している諏訪商店街は周知のとおり大変元気のない商店街ですが、一方で UR が所有するスーパー跡地は、十年来そのままになっており、未だにテナントの目処はありません。さらに、向かいの都営諏訪団地の建替えが始まり居住者が中諏訪や永山に移転すると、商店街付近に居住する顧客が減ってしまい、商店街にとっては大打撃です。このような UR や都の動きにおいては、住民や商店街は置き去りにされているような状況です。地

域住民に対する情報発信・提供と同時に、地域住民が直面している問題を取り上げ、それを再生プロジェクトに結び付ける方法を検討するのが再生推進会議の役割だと思っていたのですが、あまりそういった議論がないので残念です。

〇〇委員 〇〇委員の話のように、地域住民が直面している問題等をプロジェクトに反映することが重要です。そのためには、市民意見を収集・反映しながら進めるのか、まずはプロジェクト主体が中心となり少し時間をかけて進めるのかなど、いつ誰が何をすべきかを再生推進会議で議論し、全体を一つのスケジュールとして管理することが大切です。もう少し具体的に主体や方法を詰め、議論する必要があります。

〇〇委員 例えば都営諏訪団地の建替えは、事業主体の東京都、地元の多摩市、そして特に諏訪団地については〇〇委員からもあったように、近隣センターが密接に関係してきます。多摩ニュータウン再生方針の議論の中では、関係者の役割分担が整理されました。今は、東京都が事業主として地元や多摩市と協議をしながら進めている段階です。また、駅拠点については、鉄道事業者・UR・新都市センター開発を含む駅周辺の地権者と多摩市で勉強会を立ち上げ、駅を利用する市民の意向を把握しながら進めていくこととなります。尾根幹線については、東京都・UR・J K K・多摩市を含む沿道地権者で議論のテーブルを持ち、市民意見を踏まえた上で都市計画的な整理も進めていきます。このように、各プロジェクトは段階を踏んで進めるとともに、市民合意を得ながら進めていきたいと考えています。まだまだ大筋であり、熟度をどれだけ増していけるか、具体的に進む手立てを考えていく必要があると再認識しました。

上野委員長 勉強会や協議会などのプロジェクト主体が立ち上がるスピードはそれぞれ違うと思いますが、具体的な組織や再生推進会議との関係について、次回にはもう少し明らかにしていきたいと思います。この問題からは少し離れて、他に何かありませんか。

〇〇委員 先ほどの〇〇委員のご意見を踏まえて発言します。再生検討会議では、多摩市や東京都を含む公的な機関がすべきことを確認し、公的な機関が責任をもって動かないと変わらないところを中心に議論をしてきました。この会議の大きな趣旨として、それは重要なことだと思います。関係主体が一堂に会して議論できる場を持つことは、多摩ニュータウンという大きな規模の一つのまちを変えていくためには非常に重要なことです。一方、色々な市民の方が色々な思いを持って動いているという視点が欠けていたかもしれません。当然プロジェクトの推進にあたっては、市などの公的な機関がすべきことを考える必要がありますが、やはりまちは生活をしている人がいてはじめて動くものなので、生活者の課題や考えをくみ上げる必要があります。それらを、今動いている個々のプロジェクトに反映していくのか、あるいは新たなプロジェクトとして立ち上げるのか、プロジェクトとの関係をもう少し見えるような形にしないと、〇〇委員や市民のみなさんの気がかりが残ったままになるのではないかと思います。多摩ニュータウンの再生は市民と対話をしながら進めていきたいと考えています。例えば、特に私に関心のある住替え支援では、個々の住民の日々の生活がどれだけ良くなるのかといった視点が重要です。本当の意味でのエリアマネジメントの実現に向けた一つの要素として、住替え支援における住

民の意向の汲み上げ方をしっかりと議論していきたいと思います。

上野委員長 今年の再生推進会議をどういう方向性で考えたらいいのかという貴重な意見を賜りました。

〇〇委員 まちの再生を考えると安全・安心や合理性・利便性という言葉がときどき見受けられます。当然これらはベースにあるべきだと思いますが、多摩市を外から見たときに魅力的と思えるよう、早い段階から魅力という言葉も盛り込んでいただけると良いと思います。

〇〇委員 〇〇委員から話のあった PDCA・KPI と、昨年度策定した再生方針にギャップがあるように感じます。再生方針に示された 5 つのプロジェクトの個々の関係者と多摩市で、誰が何をするのかを話し合わなければ、今後のプロジェクトの進め方が見えてきません。

上野委員長 この件に関しては次回までに具体的に詰めておきましょう。

〇〇委員 これだけの方が集まる機会はなかなかないと思いますので、多摩ニュータウンの再生を進めるにあたって、全体検討チームを活用しながら、将来団地やニュータウンに住む方々のことにも思いを馳せつつ前に進めていくことが重要だと思います。また、資料 2 の 15 ページ目に書かれている KPI の例は、今後精査されると認識しておりますが、例えばバリアフリー満足率や相談利用者の満足度など、個々人の受け止め方によるような主観的な指標も示されています。当然そのような満足度を上げるのは重要なことですが、今回がはじめての評価ということになると、結果の値をどう受け止めたらいいのか少しわかりづらいと思います。今後具体的な KPI を決めていく際にはよろしくご検討いただきたいと思います。

上野委員長 個人的な考えですが、KPI という言葉が流行りすぎているのではないかと思います。何でも定量化してその数字だけで判断できるものでしょうか。特に居住や安心・安全などを評価する場合、定量的なことに加えて定性的な評価も必要ではないかと思います。

〇〇委員 再生推進会議に移り、「推進・行動」という非常に重要なフェーズに入ったので、ここをどう工夫するのが鍵になると思います。本当の意味での推進・行動を起こすためには、どうすれば推進できるのか、どうしたら行動できるのかを検討しているのでは意味がありません。プロジェクトの推進方法をもう少し明確化すると良いと思います。検討から脱して本当の意味での推進・行動に移すには、〇〇委員もおっしゃっていた資料 2 の 12 ページの「再生に向けた取組み方針」をどう具体的プロジェクトに落とし込んでいくか、ブレイクダウンしていくかが全てだと思います。運営体制やメンバーを決めるにも時間がかかるので、次回の推進会議を待たずに進められるところからすぐに動き出す必要があります。非常に時間も労力もエネルギーもかかる作業になるので、PDCA や KPI も重要ですが、まずは運営体制やメンバーの検討に集中すると良いと思います。PDCA を回すとしても、さきほど〇〇委員がおっしゃったように、再生推進会議の場か、各プロジェクトごとに回すのかも検討する必要があると感じました。

〇〇委員 プロジェクトのメンバーになりうる立場として申し上げますと、最初からフルスロットルは困難なので、まずは関係者が集まる合意形成の場をいかに早く作るかが大事だと思います。

上野委員長 まさしくその仕掛けを考えるのがこれからの課題です。再生推進会議は、市民・民間事業者・都・市が集まっており、この会議の下にそれぞれの具体的な仕掛けを作ることが年末くらいまでの大きな課題です。そうでないと漫然と来年の第2回会議を迎えることになってしまうので、よろしくお願いします。では、シンポジウムの資料説明をお願いいたします。

(3) 平成28年度シンポジウムについて

・事務局 資料2-3「平成28年度シンポジウムについて」の説明。

質疑等

上野委員長 ありがとうございます。これはあくまでも案です。もう少し練って、次回の委員会でも取り上げますが、この時点で何かお気づきの点はありますか。前回の印象としては、最後の座談会の時間が足りなくて一人一言しか時間がなく、市長にも十分お話いただけなかった覚えがあります。三部構成は欲張りすぎかもしれません。今までは私や西浦委員が基調講演をしていましたが、今回からは市民委員も入るので、思い切って市民や民間事業者の方を主役にしてもいいかもしれません。これからよく練ってください。なにかご発言ございますか。

〇〇委員 シンポジウムのテーマの「市民とつくる」や「市民を含む各主体の役割」にあるような、市民と一緒に進める再生を具体化し、シンポジウムで示したいと思います。先ほど〇〇委員がおっしゃっていた具体的なプロジェクトとしてブレイクダウンするというのは非常に重要だと考えています。具体的なプロジェクトとしてブレイクダウンする際に、個別方針に示された取組み例が参考になります。具体的な取組み内容や実行主体、実行時期を詰めて市民に示せば良いと思います。

上野委員長 ありがとうございます。ぜひ今の意見を参考にしてください。議事の(4)その他について事務局お願いします。

(4) その他

・事務局 資料4「多摩ニュータウンの魅力実感ツアー」実施について」および「丘のまち」HPの再開について説明。

質疑等

上野委員長 ホームページの充実はぜひよろしくお願いします。逐次進行している団地の建替えや尾根幹線道路の整備など大きなプロジェクトも大切ですが、例えば京王電鉄が取り組む生活サービスや市民レベルの動きも掲載すると、多摩ニュータウンの魅力の発信に繋がると思います。そろそろ終焉に近づきましたので、今日の会議を経て何かコメントなり決意表明なりをお願いします。

ます。

〇〇委員 ありがとうございます。本日は様々な立場での議論が交わされたと思います。その中でもPDCAで時期や周期を決め、目標を設定することが必要だと思います。ニュータウン再生は市民のためのものであり、ステークホルダーとしての市民がいかに関われるようにするかが重要です。そして、〇〇委員がおっしゃるように進められるものはどんどん進めていかなければなりません。実際に事業を進めていくスキームについては、事務局から提案できればと思っています。

6 閉会

事務局 それでは本日の会議は、以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

以上